

平成28年3月7日

伊達保育園保護者 各位

社会福祉法人桑の実福社会
伊達保育園長 早田 勝彦

伊達保育園の「自己評価」結果について

早春の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととご推察申し上げます。

さて、標記の件につきましては平成20年改訂の「保育所保育指針」により、自己評価を実施し、公表することが努力義務として示されてきました。本園においては、昨年度より実施しておりますが本年度も2月中に実施し、その結果がまとまりましたので、その概要を公表させていただきます。

見えてきた改善点については、こども園開園に向けてさらなる教育・保育の充実を目指して検討をしていきたいと思っておりますので、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

◇ 自己評価の内容

大きな項目は、下記の4項目です。それぞれの観点で、「A：たいへんよい、B：よい、C：検討を要する、D：改善を要する」の4段階で評価しました。

I 保育の理念

- ・ 保育の理念を明確にし、内容が適切であるか。
 - ・ 保育の理念や基本方針が保護者や地域に周知されているか。
 - ・ 一人ひとりの子どもを尊重した保育について共通理解がなされているか。
- 等、5の観点。

II 子どもの発達援助

- ・ 子どもの健康、安全管理は適切か。
 - ・ 楽しく食事ができるとともに、喫食状況を適切に把握し、献立や調理が工夫されているか。
 - ・ どの子どもも安心して生活できる環境であり、保育内容・方法が工夫されているか。
 - ・ 発達段階や子どもを取り巻く実態に即した保育課程が編成されているか。
 - ・ 子どもの状況や、保育内容について適切に記録され、職員間で共通理解されているか。
 - ・ 保育指針に示されている内容が実現できる環境が整えられているか。
- 等、24の観点。

III 保護者に対する支援

- ・ 食育に対する関心を高めるような取り組みをしているか。
 - ・ 日常的な情報交換や、懇談、相談など共通理解の場を設けているか。
 - ・ 不適切な養育や虐待の予防啓発に取り組んでいるか。
 - ・ 地域との交流や伊達保育園の保育についての説明を行っている。
- 等、9の観点。

IV 保育を支える組織的基盤

- ・ 事故や災害等際の安全確保のための取り組みを行っているか。
 - ・ アレルギーや慢性疾患、発達等についての情報を共有し、適切に対応しているか。
 - ・ 保護者が意見を述べやすく、苦情の際の解決の仕組みが整えられているか。
 - ・ 保育の質の向上のための研修体制が整っているか。
 - ・ 遵守すべき法令に則り、保護者も、職員も安心できる保育園であるか。
- 等、14の観点。

◇ 自己評価結果の概要

項目	観点を平均した割合（% 小数点以下四捨五入）			
I 保育の理念	A 22	B 73	C 9	D 0
※ 検討を要する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「保護者や地域への周知。」については便りやホームページの開設などの結果昨年度よりもよい結果であった。全体として「C」「D」が減ったが、「A」も減り、「B」が昨年度の46から73となった。今後、「A」が増えるよう保育・教育の充実に取り組みたい。 			
II 子どもの発達援助	A 21	B 71	C 10	D 1
※ 検討を要する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の献立等について、発達段階に応じた対応アレルギーに応じた対応は、引き続き工夫が必要である。 ・子ども一人ひとりの状況の共通理解が十分でないという反省が多かった。勤務態勢と会議・研修等のあり方について、こども園開園までには方向性を見つけないといけない。 ・子ども一人ひとりの特性の把握、特性に応じた保育に関する研修を深めていかなければならないという反省が見られた。 			
24・46・30・0				
III 保護者に対する支援	A 19	B 71	C 13	D 0
※ 検討を要する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流や地域のニーズに基づく事業などで相変わらず評価が低い。 ・震災以降地域との交流がほとんどなくなったが認定こども園開設時には、子育て支援センターを中心に取り組んでいきたい。 			
IV 保育を支える組織的基盤	A 30	B 67	C 6	D 0
※ 検討を要する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対応、避難訓練など安全、安心に対する取り組みは昨年同様良好であるが、職員の就業状況、研修体制の充実に取り組んでいきたい。 			

* 四捨五入の結果、合計で100を超える場合もある。

◇ 今後の取り組み

今年度の自己評価と昨年度の自己評価を比較すると、各項目について「A」「C」「D」が減り、「B」が多くなっています。昨年度よりも評価の観点への意識が高まった結果、厳しい自己評価になったものと思われます。中間から分けて「よい」「改善・検討」を見るとどちらかといえば「よい」が増えてはいますが、今後は、厳しい目で見えた改善充実が必要になると考えています。

また、保育園の勤務態勢の中では、全員が一堂に会しての会議、研修はなかなか難しいですが、認定こども園開園に向けて取り組んでいきたいと思えます。

来年度は、認定こども園の開園に向けた取り組み、体制作りが課題となりますが、「子どもの最善の利益」を忘れず、保護者の皆様との連携を深め「保育・教育」を進めていきたいと思えますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。